

令和6年度第1回大曲地域協議会会議録

令和6年5月23日

大曲地域協議会

令和6年度第1回大曲地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	1
■会長あいさつ	2
■企画部長あいさつ	2
■協議	
(1) 会議録署名委員の指名	4
(2) 地域課題（自主審議テーマ）の協議について	7
■報告	
(1) 「はなび・アムと周辺の取り組み」について	4
(2) 令和5年度地域枠予算の活用実績について	1 3
(3) 令和6年度地域枠予算の活用状況について	1 3
■その他	
(1) 第5期交通計画策定に係る意見書について	1 3
■閉会	1 4
■署名	1 4

■日 時：令和6年5月23日（木）午後6時

■会 場：大仙市役所3階大会議室

■出席委員：9名

鎌田 俊、後藤 仁美、根田 朋子、深谷 成男、打川 元喜、佐藤 毅、
細井 陽子、松塚 孝治、長屋 奈恵子

■欠席委員：5名

荒屋鋪 栄明、佐藤 芳紀、塚田 兼一、戸嶋 真紀子、生田目 マキ子

■出席職員：6名

伊藤 公晃（企画部長）	高橋 靖弘（地域活動応援課長）
高橋 マユミ（地域活動応援課主幹）	菅原 廣也（地域活動応援課主幹）
進藤 尚人（地域活動応援課主任）	佐々木 心都（地域活動応援課主事）

■次 第：

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 企画部長あいさつ
- 4 議 題
 - （1）会議録署名委員の指名
 - （2）地域課題（自主審議テーマ）の協議について
- 5 報 告
 - （1）「はなび・アムと周辺の取り組み」について
 - （2）令和5年度地域枠予算の活用実績について
 - （3）令和6年度地域枠予算の活用状況について
- 6 その他
 - （1）第5期交通計画策定に関する意見書について
- 7 閉 会

（午後 6 時 開会）

○事務局(高橋主幹)

本日はお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。
ただ今から令和6年度第1回大曲地域協議会を始めさせていただきます。
はじめに、鎌田会長よりごあいさつをお願いします。

○鎌田俊会長（以下、会長と表記）

みなさんこんばんはと言うにはまだ明るいですが、会長のあいさつというとみんな堅苦しくなりますが、今日は皆様にお話したいことを伝えて、会長のあいさつとします。

4月25日、松塚さんが所属している大曲地区コミュニティ会議の総会がグランドパレス川端でありまして、私と今野副市長が出席させていただきました。角間川のコミュニティ以外知らない人間なので、よそのコミュニティがどのような活動をしているか、いろいろなことに興味がありまして、非常に楽しみにして参加させていただきました。3年ぶりの懇親会ということで、積極的にいろいろ話をさせていただきました。私個人としては、他のコミュニティ会議の皆さんの生の声を聴くことができて勉強になりましたし、大きな収穫の一日であったと思います。

次に、私の認識不足かもしれないですが、ここ1か月の間に知り合いの方から大曲の地域協議会の内容を見ていると言われました。確認したら、ホームページで会議録を閲覧したということでした。

大切なことは市民の方々が閲覧しているということ。また、みんなが同じ大切な時間を共有しているということが確認できました。本日も以上のことを踏まえて、人数が予定よりまた減りましたが、2年目の協議会をしっかりと充実した内容にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

○事務局(高橋主幹)

続きまして、伊藤企画部長があいさつを申し上げます。

○伊藤企画部長（以下、企画部長と表記）

本日は、お忙しい中、お集りいただきましてありがとうございます。

本日は、6年度第1回目ということで、ぜひ活発な議論をお願いしたいと思っております。

皆様には、それぞれのお立場からいろいろな課題、問題に向き合っていただいております。いろいろな提案、提言をいただいておりますので、この場をお借りいたしまして、心からお礼を申し上げます。

昨年度の協議会において、地域の現状、課題、問題点を出していただき、新たな二つの自主的審議テーマを決定し、ご協議いただいております。本日は、それについて引き続きご協議をお願いしたいということと、また、地域予算の5年度の実績についても報告をさせていただくこととしております。

それから、彩色千輪プロジェクトということで令和4年度から事業を実施しておりますが、大曲地域は「はなび・アム」が拠点施設となっております。花火通り商店街、他の地域への経済的効果、交流人口の拡大を促すためにいろいろな事業を展開しておりますが、今年度も、地域協議会の皆様から様々なご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

お知らせという形になりますが、大仙市は令和7年3月22日に、合併の20周年を迎えます。市ではこの節目を皆さんとお祝いしたいということで、様々な事業を考えております。

6年度から7年度にかけて通年で、いろいろなことを実施しようと思っておりますが、その事業の大半については、来週開会の定例会に事業の予算案の提案を予定しております。これが議決されますと初めて実施できるということで、承認された暁には、皆様からのご協力いただきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願いします。

最後になりますが、大曲地域を元気にするため、皆様とともにいろいろな課題に対する解決に向けて取り組んでいきたいと思っております。ご負担やご迷惑をおかけしますが、これからも一緒になって取り組んでまいりたいと思いますので、本日も忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

○事務局(高橋主幹)

ここで、新しい年度が始まりましたので職員を紹介させていただきます。

○事務局(高橋課長)

私の方から本地域協議会の事務局職員を紹介させていただきます。

【地域活動応援課職員を紹介】

○事務局(高橋主幹)

それでは会議に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 配席図
- ・ 資料No.1 本日の協議の進め方
- ・ 資料No.2－1 地域課題協議シート（A班）
- ・ 資料No.2－2 地域課題協議シート（B班）
- ・ 資料No.3 「はなび・アムと周辺の取り組み」R5事業実績
- ・ 資料No.4 令和5年度地域枠予算活用事業一覧
- ・ 資料No.5 令和6年度地域枠予算活用事業一覧
- ・ 第5期交通計画策定に関する意見書について

以上でございます。お手元に無い場合はお知らせ願います。

このあとの進行については、大仙市地域自治区の設置等に関する条例第8条第4項の規定により、鎌田会長にお願いします。

○会長

それでは、会議をはじめます。

本日は、荒屋舗栄明委員、佐藤芳紀委員、塚田兼一委員、戸嶋真紀子委員、生田目マキ子委員から欠席の届出がされております。本日の出席委員は9名でございますので、2分の1以上が出席されておりますので、会議は成立しています。

次に、議題に入ります。

議題の1、会議録署名委員を指名いたします。根田朋子委員と細井陽子委員にお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○会長

続きまして、議題の2「地域課題（自主審議テーマ）の協議について」を議題といたします。事務局から、説明をお願いします。

○事務局(高橋主幹)

【資料に基づき説明】

○会長

これから討議に入るわけですが、討議時間は一応30分にしてますが、大体30分でいつも終われないので10分ぐらいの前後を考えております。これから恒例のようにいろいろな資料を使いながら、どなたが発表するか、誰が記載をするか決めた上でお願いします。ちょっとB班の後藤仁美さんが遅れているので、皆さん揃ってから討議を始めたいと思いますが、先に報告案件から進めてはいかがでしょうか。

○事務局（高橋課長）

それでは報告案件の1「はなび・アムと周辺の取り組み」についてからご説明してよろしいでしょうか。

○会長

はい、お願いいたします。

○事務局(高橋主幹、佐々木主事)

【資料に基づき説明】

○会長

何か質問等ございましたらお願いします。

○根田委員

このカードを作るに当たって、お店側ではお金がかかりますか。

○事務局（佐々木主事）

負担金として8千円をいただいています。100枚単位で作成し、100枚作る毎に8千円発生します。

○会長

カードの大きさに関して、どなたか意見等ありましたらお願いします。

○長屋委員

見るだけであればこの大きさでよいが、お客さんが持ち歩くには大きかったのではないか。最低でも一万円札を半分に折った位の高さでなければ財布に入らないし、折り曲げもできないので、使いづらいのではと感じました。

○松塚委員

ノートにしてスタンプ型にしてもよかったのではと思います。

○長屋委員

自分で持ち帰るとすれば旅の思い出になって、後から見たり、SNSにあげたりはできると思うが、なかなか難しい大きさだなと思いました。

○佐藤委員

今、観光客はほとんど台湾か中国からです。このカードは全部日本語です。角館に来る人もほとんどが台湾人です。その人たちが流れてくる可能性や、大曲の観光客は、花火も台湾人や中国人が多くなってくると思うので、日本語だけでなく外国語の表記も必要ではないかと思いました。

○事務局（高橋課長）

この事業は手探りの状態で始めた事業であります。地域協議会の皆様のご意見を聞きながら改善を重ねて運用していきたいと考えておりますので、今のご意見、インバウンドの方々にもわかるように、韓国語や英語のカードも何種類か並べてというのは、今後検討していきたいと思います。まだまだ改善できる余地がありますので、そういう部分は検討してまいりたいと思います。

このサイズは、美郷町でやっている同じようなまちナビカードを参考にしたものです。大きさに関しては、最初、名刺サイズも検討しましたが、検討する中で、この事業の目的が、街の周遊、カードを持ちながら花火通り商店街を歩いてもらうということで、名刺サイズではポケットや財布に入れたまま、カードを持ち帰ってしまうのではないかというお話もありまして、逆にカードを手を持ちながら花火通り商店街をぶらぶら散策してもらうようなイメージで作成したところです。歴史カードについても、カードを手にししながら歴史の名所に行っていたら、カードについているQRコードでその場所の説明を閲覧できるというストーリーで作成したものでした。先ほど長屋委員からちょっと大きすぎるのではないかというお話もありましたが、サイズにつきましてはそういった部分をご理解いただければと思います。

○会長

他にご意見、それから質問等があればお願いします。

○深谷委員

この内容ではないが、確か昨年の地域協議会で、はなび・アムの活用や活性化のためのアンケートを行ったと思います。依頼先の部署は違ったと思うが、どのような結果だったのか。

○事務局（高橋課長）

今後のはなび・アムの活用について意見や提案をいただきたいということで、はなび・アムの担当部署から皆様に依頼させていただきました。はなび・アムでは、いろいろな事業をやっておりますが、リピーターの増加や、リニューアルに関する事など、ご意見をお願いしたところでした。はなび・アムでは、いただいたご意見をもとに、その活用方法について検討中であります。はなび・アムとは、様々な面で連携しながら事業を進めておりますので、今後何らかの形で皆様にご報告させていただきたいと思います。

○深谷委員

食のカードの話で、この前オープンカツのコンテストをやったようですが、優勝したところにも、積極的に声をかけることがあってもよいのではないかと思います。

○事務局（高橋課長）

お声がけをして、ぜひカードを作っていただきたいと思います。

このカードの件ですが、先ほど佐々木から説明がありましたけれども、実際、観光物産協会と花火通り商店街に、お店の方にお声がけをしていただけないかということで、長屋委員からもお声がけしていただいたところですが、多くのお店から賛同を得ることがなかなか難しかったところでした。看板にはまだ空きスペースがありますので、大曲地域協議会委員がお薦めするスポットやお薦めするお店などを是非ご提案いただければということで、お話をさせていただいたところです。

○会長

これは大曲の街中に限らず、旧大曲市全体のエリアを対象とするものですか。

○事務局（高橋課長）

大曲地域全体です。角間川地区、内小友地区などでご紹介したいスポットをご提案いただければと考えております。

○会長

ここで後藤仁美さんがいらっしゃったので、後藤さんの方からも質問がありますか。

○後藤委員

県外から来た方はどこに何があるかもわからない方が多く、私のところには多分5枚ぐらいカードを持って来たのですが、お店とリンクするようなマップがあればいいと思います。このお店はここに行けばよい、ここが近いから行けそうだななど。多分皆さん、何か目的があるから大曲にいらっしゃって、旅行の途中で寄られる方が利用するとなると、ほっぺさんや弁天さんには、近くに用事がある、それならばここに行こうかなとなると思います。プラスチックは駅にあるので、駅でたまたまカードを見つけて使ってくださる方がいらっしました。それと、カードの設置場所がわかりにくいところも多分あると思います。個人的には、設置場所が駅の目立たない場所に置いてあると思います。改札を出て目に付く場所がないと、観光案内所さえもわからなくてどこにありますかとよく聞かれるので、その陰になるような場所だと見つけにくいのではないかなと思いました。私も見つけられないぐらいだったので、ちょっともったいないなと思いました。

○事務局（高橋課長）

ありがとうございます。設置場所につきましては、当初観光情報センターの中に置いていたのですが、やはりわかりにくいということで、外に出して置いてあります。設置場所が、エスカレーターを上がってちょっと裏側になりますので、今後、観光物産協会やJRとも協議しながら検討してまいりたいと思っています。

地図に関しても、スペース的にどうかというのがありますので、今後検討してまいります。

○長屋委員

地図に関して付ける場所がないということであれば、このパネルにスマホからマップが見られるQRコードを付けることはできないですか。ページは作ることになるが、そんなにスペースは必要でないと思います。

○事務局（高橋課長）

ありがとうございます。パネルにQRコードが付いていて、それを読み取るとマップが出てくるとようなアイデアは可能だと思います。今後検討していきたいと思っています。

○会長

他に、ございましたらお願いします。ただグループ討議をいつまでも開始しないわけにいけないので、まずグループ討議を行った後で、改めてまた質問を受け付けるという形でよろしいでしょうか。

では先ほど説明があったように、これからグループ討議を開始します。恒例の形で、一応30分の時間を取りたいと思います。内容によっては、もう10分ぐらいは延長してもいいかなと考えています。

それでは今から、7時20分、あるいは7時半を目途にしてグループ討議を行ってください。

【グループ討議】

(A班)

鎌田俊

深谷成男

佐藤毅

細井陽子

松塚孝治

長屋奈恵子

(B班)

後藤仁美

根田朋子

打川元喜

○会長

時間通りA Bともに出てきましたので、ではAグループの方から発表をお願いいたします。

○長屋委員

長屋です。よろしくお願いします。

Aグループは前回大農を巻き込むということでしたが、大仙市産の素材を生かして商品化を目指すということで、最初は大農さんのことを考えてでしたが、連携協力団体については、市内に他の高校もあるので、大農さんに絞らず、他の高校も巻き込んでいければよいのではという話になりました。

ちなみに佐藤毅さんが大農さんの方にいろいろと農産物の指導などを行っておりまして、そういうところからちょっとずつ広げていければいいのではという話になりました。

今、オープンカツが大曲のソウルフードということで話題になっていますが、登録店を増やしていきたいということと、アピールのためにのぼりを使ったらどうかという意見が出ました。

先日、オープンカツグランプリがありましたが、残念ながら大曲商工会議所青年部さんでやったので大曲地域だけでした。藤井8冠が幻の勝負めしに選んだバンフィール、しゅしゅえっとまるしゅは大仙市商工会ですので、入ってませんでした。多分このままやっていると、他の地域が入ってこないのでは、盛り下がってしまうのではないかなと思ひまして、ここは何とか市にお願いして、大仙市商工会さんと大曲商工会議所さんを繋いで、市全体で盛り上げていただければと思いました。そのような感じでやっていければ、毎年コンテストやイベントもやっていけるのではないかなと思います。

のぼりでアピールということでは、横手やきそばののぼりのように、一目で横手焼そばとわかるような、目立つものがあればいいのではという意見が出ました。

ちょっとどこの県か忘れてしまったのですが、プリンの街というところがあって、地域のプリンのお店の紹介のマップを作っていて、それぞれ個性的なプリンがたくさんあるんです。そういうのをマップでまとめてあるので、ここを食べたから次はここで食べようという感じで、オープンカツもやっていければいいのではないかという話になりました。大体このような感じです。ありがとうございます。

○会長

何か質問等、後藤さんお願いします。

○後藤委員

オープンカツは60代以降の人でないとソウルフードではないという話が結構お店のお客様の間であって、昔はどこで食べていたのですかと聞いたら、現在ののびのびらんど2階の喫茶店で食べていたと聞いて、その辺の歴史を聞くことも大事なのではと思いました。

○長屋委員

カネトクさんや味よしさんでもやっていたので、そのストーリーも含めて発信していければいいと思います。

○後藤委員

ただ藤井聡太さんがオープンカツを食べたから盛り上げていこうというのでは、市民の共感が得られないと思うので、大曲のソウルフードはオープンカツでいくとすれば、どうして大曲のソウルフードがオープンカツなのかということを市民の方々に伝えていかなければならないと思います。

○佐藤委員

プロモーションビデオを作ったらどうか。

○長屋委員

それも良い取り組みだと思います。

○会長

いや本当に的をついてますよね。義理の兄と食事をしている時に、大曲のソウルフードは何だと思うと聞いたら、オープンカツでした。歳が私の2個上なので、そういう人に聞くと、大曲のソウルフードはオープンカツとずっと答えるんですよ。私はその時中学生でしたが、昔ステータスだったこともあり、自分のソウルフードはやっぱりパークのオープンカツなんですよ。それがすごく思い出に残っているので、我々世代60代70代辺りは、きっとそう答える人が多いかもしれない。ただ、後藤さんが言うように説得力がなさすぎる。実は、私は藤井聡太さんのオープンカツというのは全然イメージがないんですよ。

逆にそういうストーリーを作らなければ、本当の大曲のソウルフードがオープンカツというのはちょっと難しい感じがします。

○長屋委員

懐かしい世代と新しい世代と、とりあえずがつつり食べられればいいという方もいると思いますので、藤井さんも食べたということでPRできればいいと思います。

○会長

藤井聡太さんは、PRためのプラスαとして考えていいと思います。

○細井委員

若い人達にソウルフードとして認知してもらうため、学校給食に年1回でも良いので、出してもらうのはどうでしょうか。

○佐藤委員

オープンカツの歴史を覚えている人が高齢化してますよね。

○長屋委員

当時のメニューや写真などもPRに使ったらどうか。

○会長

PRの方法をちゃんとみんなで考えて発信していかなければならないと思います。

○佐藤委員

当時のメニューや写真、分かる人への聞き込みをするなど、その上でプロモーションビデオを作るとか、アピールをしていかないといけないと思います。

三種町ですごくプロモーションビデオを作っています。コマーシャルを見るだけでそこへ行ってみようかなと思います。大曲もオープンカツの歴史をきちんと調べて発信していくということが大切ではないでしょうか。

○長屋委員

各お店でいろいろな形があってもいいと思います。オープンカツのある程度のフォーマットが決まってそれに則っていればいいだけで、それで広がっていけばよいのではないかと思います。

今、急に思いついたのですが、オープンカツを広めたいのであれば、みんなでウィキペディアに書き込みしてもいいのではと思います。それで町おこしをしているところがあって、ウィキペディアタウンと言いますが、市民を集めてみんなでその市の良いところや説明をどんどん書き込んでいってます。海外では結構成功しているところがあります。市全体となるとちょっと大変ですが、オープンカツだったら、いろいろ書き込んでいけるのではないかと思います。以上です。

○会長

はい、ありがとうございました。いいですね。何かご質問あればですけども、次、B班の発表をお願いいたします。

○根田委員

はいB班の根田でございます。私達の話し合いの中で、まず一番大事なのは、やっぱり情報のプラットフォームというのが、最優先で重要なのではないかという話になりました。前回、ターゲットは県外なのか市内向けなのかという話になったのですが、やっぱりここは市内向けではないかという話に落ち着きました。情報のプラットフォームにはいろいろな形があると思います。さっきのまちぶらか一どもプラットフォームの一つだと思いますが、やっぱり若年層というか若いファミリー層にも発信していければいいと思いました。

若い方は、やっぱりSNSやネットで情報を得るので、例えば、インスタグラムで「#大仙市#イベント」で、どんなイベントがヒットしてくるのかわからないですが、いろいろなイベントがヒットしてくると思います。そうするとやっぱり自分たちで情報を取りに行かなければいけない形になってしまうので、本当に欲しい情報が得られないまま、ただ時間だけが過ぎていってしまうこともあります。ちょっと順番が変わりますが、次の日曜日に時間があって、その日にやっているイベントに行きたいと思ったとき、例えばカレンダーの5月17日をクリックすると、いろいろなイベントの情報が出てくればいいという話が出ました。大きいイベントは大仙市のホームページや広報にも載っているのですが、15人から30人程度の小さなイベントの情報が欲しいので、そういう情報が入ってくるといいのではないかな。その情報は、まちぶらか一どのような感じでジャンル分け、例えば食のイベントであったり、参加型のイベントであったり、買い物や観劇ステージ、そのような感じで何となくのジャンル分けがあればいいねというところまで話がいきました。

期待される効果として、イベントの雰囲気とその情報からわかるのではないかな、例えばカレンダー形式にしてイベント情報が何個かあり、そのイベントを押すと、そのイベントを紹介しているインスタグラムやXに飛べるような感じでやると、そのイベントの雰囲気がそこから掴めるので、参加しやすい雰囲気が作れていくのではないかな。そこから、今度は私も何かイベントを作りたいなと思う人が出てくるのではないかな。そうすると地域活性化に繋がるのではないかなというところまで考えました。

誰がやるのかという話ですが、やっぱりボランティアでは続かないし、片手間では続かないし、人手が足りないとなってしまいます。

取り組み体制を考えたときに、予算さえあれば企業にお願いできると思います。プラットフォームのページを作るのは、企業にやってもらうのが一番いいものが作れると思いますし、私達もお願いしやすいところもあります。そうするとお金がかかりますので、地域おこし協力隊の方に協力をお願いしたり、地域のお母さんたちの「秋田っこぐらしイベント情報」というLINEのアカウントがあるそうで、そういった小規模で活動している人たちとの連携や、いろいろな世代の方にも参加していただきたいので、学生の方々も入れたいねという話でまとまりました。

○会長

はい、どなたか質問意見等ございましたら、補足ありませんか。

○後藤委員

取り組み体制の部分で、企業か地域おこし協力隊か、やってくれる人がいるのが一番なのですが、例えば企業にお願いすることができた場合に、その企業に丸投げだと、結局私達の目指してるものができなくなるのではないのでしょうか。丸投げでなくて、お願いする場所が決まった際には、地域の人を巻き込んで、意見を取り入れたホームページが出来上がってほしいなというのが、B班で出た答えです。

○会長

どなたかご質問はございますか。

○佐藤委員

最初から大々的にお知らせしてしまうと、大曲の市民性として行きづらくなるので、私はいつも口コミだけでだんだん広げていくようにしています。優しくこじんまりとスタートしてもいいのではないのでしょうか。

○長屋委員

まわりに知り合いがいなくて、子どもが小さくて子ども連れでなかなか出かけられない人には、そういうものがあるとすごくいいなと思います。

○佐藤委員

イベントは楽しいものだけに絞った方がいいのかなと個人的には思います。絶対楽しいものだけを集約したイベントのコーナーにした方がいいと思います。

○長屋委員

それもジャンル分けしてやればいいと思います。

○後藤委員

少ししか集まらないイベントをこういうところに載せることで、一人でも二人でも参加者を増やすということも目的の一つではないかと思います。

○細井委員

FMはなびのラジオで今日の花火というコーナーがあるのを知らなくて、例えばはるか遠くで花火が鳴ったときに、地域のお年寄りや私は、今日の花火何だろうとネットで調べたりするのですが、情報が出ていません。意外に花火の音には敏感なんです。地域のお祭りの花火でも、花火が上がると何だろうねと思います。そういう情報をネットで教えてもらえれば、ちょっと行ってみようかとなって交流人口が増えるのではないかと思います。

○根田委員

FMはなびで今日の花火は放送しているのですが、全部の花火の情報が入ってくるわけではないです。届出が出ているものは情報が入ってきますが、試し打ちみたいなものは入って

きません。全部フォローはできていないです。

○長屋委員

わかる人がそういう所に載せて、それが反映されればいいと思います。

○細井委員

誰かが今日の花火でネットにあげてくれれば、みんな見たりすると思います。

○長屋委員

プラットフォームができれば、そういう声を募集することもできると思います。

○会長

次に移りたいと思います。特別な質問等が無ければ次に移ってよろしいですか。

順番が変わってしまいましたが、次に報告の2、令和5年度の地域枠予算の活用実績について、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局(菅原主幹)

【資料に基づき説明】

○会長

ただいま事務局から、地域枠予算の活用実績について説明がありましたが、何かご質問等があれば。無いですね、それでは次に報告その3、令和6年度の地域枠予算の活用状況について説明を事務局からお願いいたします。

○事務局(菅原主幹)

【資料に基づき説明】

○会長

ありがとうございます。ただいま、事務局の方から説明がありましたけれども、質問等ございましたら、お願いいたします。

では、次第5の報告を終了いたします。

○会長

では、次第の6番のその他に移ります。(1)第5期交通計画策定に関わる意見書について説明をお願いいたします。

○事務局(進藤主任)

【資料に基づき説明】

○会長

ありがとうございました。皆さんから何かご質問等があればお願いします。
無いようですので、他に事務局の方から連絡等あればお願いします。

○事務局（佐々木主事）

1 件だけ、先ほどご説明したまちぶらか一ど事業についてですが、委員の方から情報をいただきたいということで、用紙をお配りするのでそちらにご記入いただいて、6 月 5 日まで返信用封筒、もしくは地域活動応援課の窓口までご提出いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○会長

わかりました。
他に事務局の方からございますか。

○事務局（高橋主幹）

次回、第 2 回目の大曲地域協議会ですが、7 月を開催予定としておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○会長

ありがとうございます。委員の皆様から何か総合的に質問があればお受けします。
無いようですので、これをもちまして本日の会議を閉じさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。ごくろうさまでした。

（午後 8 時 0 5 分 閉会）

大曲地域協議会運営規程第 7 条第 2 項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員
